

needs 社内のコミュニケーション不足を解決したい

デジタル技術を活用した“アナログの温かみ”を残すコミュニケーションの実現

会社概要
企業名 : 株式会社エヌエスケーカー
事業内容 : 通信機器販売、通信サービス
従業員数 : 63名 (2026年3月31日現在)
所在地 : 兵庫県神戸市灘区深田町4丁目1-1 ウェルブ六甲道2番街5階

背景
同社では20年以上前から、従業員同士が感謝の気持ちを書いて渡す「紙のサンクスカード」を運用し、社内のコミュニケーション活性化に取り組んできた。紙の文化は定着していたが、「カードをすぐに渡せない」「集計や管理が煩雑」「組織改善に活用できるデータが残らない」といった課題が見られた。デジタル化が進む一方、社員間の心的つながりが希薄になりがちな状況もあり、「アナログの温かみを維持しつつ課題を解消する仕組み」の必要性が高まっていた。

IoTを活用した課題解決の内容

紙のサンクスカードが抱えていた「渡す手間」「集計の負担」「データ活用の困難」を解消するため、アナログの温かみを残しつつ即時送信・自動集計できるサンクスカードアプリを独自開発。さらに、送受信データをLooker Studioで可視化し、レポート作成はRPAで自動化することで、手軽な運用と組織改善につながるデータ活用を実現した。

課題

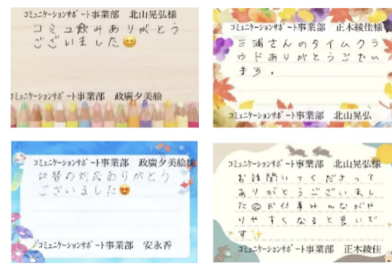
- ①紙運用では管理が煩雑で、全体傾向の把握が困難。
- ②送受信状況が共有されず、組織全体の可視化ができない。
- ③感謝文化が育っても、改善活動や人材育成へ結び付きにくい。



解決方法

- ①紙の良さを損なわずに課題を解消するため、独自に「サンクスカードアプリ」を開発。
- ②スマートフォン・PCから気軽にメッセージを送り合える仕組みを実現した。
- ③さらに、蓄積されたデータを活用するため、部署/役職/個人ごとの送受信数の可視化・推移データのレポート作成・レポート更新のRPAによる自動化を行い、組織改善へ活かせる仕組みを整えた。

特徴



- アナログ×デジタル融合手書き文化の温かみを残しつつ、デジタルで手軽に利用可能。

- 各種データを可視化して課題発見を促すとともに、月次レポート更新をRPAで自動化し、運用負荷の最小化を実現。



- 送受信ランキング、カード一覧ポスターをVBAで自動作成。掲示することでコミュニケーションの活性化を図る。

導入成果

- ・アプリ利用企業は197社・21,177名に拡大。
- ・従業員同士の承認・称賛が増加し、組織内のエンゲージメント向上に寄与。
- ・部署ごとの送受信傾向が可視化され、マネジメント改善に活用できると評価。
- ・毎月の推移データを提供することで、企業側の変化察知が早まり、組織課題の早期発見につながっている。

成功したポイント

- ・既存の紙文化の「良さ」を残した設計で、現場が抵抗なく導入できた。
- ・データ分析サービスを付加し、単なるアプリ提供で終わらない価値を創出した。
- ・RPAなど、社内DX基盤が整っていたため持続的な運用が可能にすることができた。

今後の展開予定

- ・蓄積データの高度活用感謝の流れを組織改善・人材育成により活かすため、さらに分析軸を拡張する。
- ・新サービスの創出アプリ運用企業に対するDX支援やコンサルティングまで提供範囲を拡大を行う。
- ・地域・顧客企業へのノウハウ還元同社のDX知見を活用し、企業間のコミュニケーション改善やデジタル活用を支援を行う。